

キトラ古墳の保存・活用に関する状況等について

1. 壁画の保存・活用について

(1) 壁画の取り外し状況について

平成21年度は、年2回の集中的な取り外し期間を設けて余白漆喰の取り外しを行い、天井については、取り外しが終了した。

平成22年度は、第1回目として4月12日(月)から5月28日(金)(5月1日から9日を除く。)にかけて側壁の余白漆喰を取り外す予定である。

(2) 取り外した壁画の仮保存処置について

平成21年度は、これまでに仮保存処置を終えたものについて、引き続き状態の安定を図りながら、保存管理し、平成19年2月に取り外した「朱雀」については、平成22年5月からの特別公開に向けて仮保存処置を実施した。

平成22年度は、天井天文図の再構成等、必要な保存処置を行う予定である。

(3) 状態が安定した壁画の特別公開について

平成21年度は、5月に四神「青龍」「白虎」を特別公開した。

平成22年度は、5月から6月にかけて「朱雀」を含め、四神全てを一括して公開する予定である。



四神「朱雀」(平成22年2月10日現在)

(4) 将来的な壁画の保存管理について

壁画は、現地の石室内で保存されることが基本であるが、現在の保存技術では間違いなく生物被害が生じてしまうため、キトラ古墳の壁画については、恒久的な保存を図る観点から、環境を制御しながら安全に保存管理することができるよう、当面の間、石室外の適切な施設で保存管理・公開することとした。

保存管理・公開施設に求められる設備・条件等については、「文化財公開施設の計画に関する指針」の考え方や意図、内容等を十分反映した上で、キトラ古墳壁画の諸事情に対応していくこととした。

壁画の保存管理・公開施設の場所については、明日香村内とすることとし、奈良文化財研究所飛鳥資料館等の既存施設や国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内の施設等を視野に入れ、管理運営体制等のソフト面も含めて検討することとした。

2. 古墳の整備・活用について

壁画の取り外し終了後、古墳をどのように整備・活用するかについて、過去の発掘調査の成果や他の古墳の整備事例、これまでの意見等を整理した上で、今後、引き続き検討することとした。